

□科学委員会のガバナンスの改善について

屋久島世界自然遺産地域科学委員会 委員
土屋俊幸（東京農工大学）

1) ガバナンスの簡単な定義

- ・ IUCN のガイドライン

保護地域のガバナンスは、Who decides? How? つまり、マネジメントの内容を、だれが、どのように決めるのかを問う。

- 民主性、公正性、公平性等の担保（協治）

- ・ 組織を健全に運営すること、あるいはその仕組み。コーポレートガバナンス。（統治）

2) 科学委員会のガバナンス

① 科学委員会の委員構成、意志決定の方法等が民主的で、公正性、公平性等を十分に担保しているか？

② 科学委員会の機能が十分に果たされているか？ 科学的な検討がなされ、その検討に基づく助言が決定され、その助言が有効に地域連絡会議に伝えられているか。

3) 4つの世界自然遺産地域科学委員会のガバナンス比較（表1、表2）

(1) 地域連絡会議の構成 ガバナンスの視点からは大きな格差

- ・ 屋久島、白神山地：関係行政機関のみで構成。

- ・ 知床、小笠原諸島：+ 民間の諸団体（農協、漁協、観光関連団体、自治会等）

- ・ 特に小笠原は民間の調査研究機関まで含まれる。

(2) 方法

- ・ 各世界自然遺産地域のウェブページからの情報

- ・ 各世界自然遺産地域科学委員会の委員へのアンケート

(3) 結果

① 科学委員会の活性度

- ・ 知床・小笠原と白神・屋久島の差

- ・ WG 数、多様性→ほとんどの委員が WG を通じて現場に関与。

- ← 屋久島は検討会の設置で補填？

- ・ 総合性では知床。

②科学委員会と地域連絡会議の関係

- ・知床・小笠原と白神・屋久島の差
 - ・委員長がオブザーバーとして出席することの有無。
- ・屋久島と他の3地域の差
 - ・地域連絡会議への提言・答申・要望等の有無。←地域連絡会議の活性度

4) 提言

- (1) WGの必要性について再度、総合的に検討。
- (2) 会議の持ち方の検討
 - ・毎回、合意事項、提言・要望等をまとめる。
 - ・報告・質疑だけでなく、議論の場へ。
- (3) 委員長の地域連絡会議への出席

◎地域連絡会議の改革必要

- ・地域連絡会議と科学委員会の機能分離の必要性
 - ・地域連絡会議の役割（多様な意見の聴取）を科学委員会が代替している面がある。→構成メンバーの再検討が必要か。
- ・会議の定期的な開催と議事内容の公開。

表 1 4つの世界自然遺産地域の概要

	登録年	面積（A 地区＝核心地域） ha	関係都道府県・市町村	地域連絡協議会 構成団体					
				環境省	林野庁	都道県	市町村	その他行政機関	その他団体
知床	2005	71,100 (34,000) 陸域 48,700	1道2町	○	○	○	○		漁協4、ウトロ地域協議会（自治会連合会）、知床ガイド協会、（公財）知床財団 【オブ】科学委委員長、海保、運輸局、開発局
白神山地	1993	16,971 (10,139)	2県4町1村	○	○	○ 2県	△ 6		※5町村＋能代市が2010年からオブザーバー参加
小笠原諸島	2011	7,939 (-) 陸域 6,358	1都1村	○	○	○	○	○ 国土交通省小笠原総合事務所	小笠原村商工会、小笠原村観光協会、小笠原母島観光協会、小笠原ホエールウォッチング協会、小笠原島漁業協同組合、小笠原母島漁業協同組合、東京島しょ農業協同組合、NPO小笠原野生生物研究会、NPO小笠原自然文化研究所、小笠原環境計画研究所 【オブ】科学委員会
屋久島	1993	10,747 (-)	1県1町	○	○	○	○ 2002年から		

注：【オブ】＝オブザーバー

表2 世界自然遺産地域科学委員会のガバナンスの比較

	設置年	委員 数	※	年間開催回数 と場所	WG	関連会議等	地域連絡会議への提言、諮問への答申、要望等	環境省・林野庁・都道府 県への提言、要望等	地域連絡会議 への参加
知床	2004 年	12	3	2回。札幌市と 地元(斜里また は羅臼)	エゾシカ・ヒグマ、海域、 適正利用・エコツ ーリズム、河川工作物アドバイ ザー会議	適正利用・エコツ ーリズム検討会 議	WG、AP からの緊急性のある要望等は、委員会で 承認されると地域連絡会議で検討。公園利用につ いては、特に委員会の部会と連絡会議の部会が合 同会議で検討。	なし	委員長が出席(オ ブザーバー)。
白神 山地	2010 年	8	2	2回。1年ごと に弘前市、秋田 市。	なし		モニタリング計画の見直し案、シカの管理に関す る提言(数回)、秋田側の立ち入りに関する見解。 何れも正式の諮問への答申ではない。	なし	なし
小笠 原	2006 年	12	2	1回(地元)。	グリーンアノール対策、 新たな外来種の侵入・拡 散防止に関するWG、希少 動物の野生復帰に関する WG、父島列島生態系保全 管理に関するWG等	〈地域連絡会議 の下に〉地域課題 検討WG	地域連絡会議からの諮問に基づく提案は過去2- 3件。連携のための合同会議開催の例あり。議論 の結論を明確にするため、毎回「助言」を合意の 上、とりまとめ。合意していないものは、「指摘」 として付記。	なし	現地在住の科学 委員の1人が地 域連絡会議委員 を兼任。委員長も 基本的に出席(オ ブザーバー)。
屋久 島	2009 年	14	2	2回(鹿児島市 と地元)	ヤクシカ	遺産地域・国立公 園における山岳 部利用のあり方 検討会、高層湿原 保全対策検討会	〈2018年までの7年間、地域連絡会議は未開催〉	委員会での各委員の発言 の主なものについて、次 回の委員会で、省、庁、 県、町からの回答を文書 で示す。	なし

注：※は社会科学系研究者の内数

資料：各遺産地域関係のウェブページ、科学委員会委員へのアンケート調査による。